

平成 30 年 10 月 8 日(祝・月)に人間福祉学会を開催しました

今年は就職して4年目、5年目、7年目の卒業生に来ていただき、仕事内容や職場での人間関係をどのように築いているか、困難にぶつかった時の対処法、今後の展望などを語っていただきました。

発表者の分野としては、障がい福祉分野、高齢者福祉分野から3名に発表していただきました。



本日発表をしてくださった方は、職員人数や職種、勤務内容も異なりますが、職場での人間関係を良好に築いており、何かあった際でも上手く解消されていることを発表から感じました。

ある方は、職場での交流が多く企画されている為、何かあった際は職場の方や同期に話を聞いてもらうことが多いと話されていました。また、ある方は、職場でないけれども同業者で繋がりのある知人に相談したり、趣味を通して発散出来ているといったお話を聞くことが出来ました。

中には、職員同士の人間関係ではなく、利用者さんとの関わりに難しさを感じることがあり、自分自身常に模索していたり、職員同士で協働しているという話がありました。職場で働く中で、職員同士での関係もあれば、利用者さんとの関係、外部機関との関係もあります。様々な関係の中で、上手く人間関係を築いていくことはとても重要になりますが、本日発表してくださった卒業生の方は、職員同士で依存してしまっているが故に起こるトラブルもなく、互いに協働出来る適度な距離を保つことが出来ているのだと感じました。

卒業生で参加してくださった方にとっては、自分の職場や自分自身の人間関係や発散方法を見つめる良い機会となり、在学生にとっては学校生活の中で起こる人間関係に繋げて考えることが出来る良い機会となったのではないのでしょうか。

卒業生の発表の後に休憩を挟んで、参加して下さっている卒業生や様々な立場の先生に人間関係についてお話を聞く機会を設けました。

卒業生の方の話では、札幌から来てくださった2期生の方の話の中で次のような話がありました。

「人間関係でいうと、過去に上司との関係に悩んだこともあったけれども、現在の職場ではよく考えると人間関係を意識しておらず、関係性をどうこうではなく職員同士お互いのことを理解しよう、この感覚を職場で大事にしようとしている。お互いのことを知り、相手の状況を把握しようと意識することに努めている気がする。理想の職場像としては、自分の情けない所であったり、他者も情けないところをさらけ出せたり、語り合える文化を職場で築いていけたらよいのではないか。」

語り合うことで、助け合えることができ、ギクシャクすることも減るのだと感じました。



総評は人間福祉学会会員で、人間福祉学科元教授の塚村英幸先生にお願いしました。

人間福祉学会は、学びの場であり、同窓生とのつながりを持つ場でもあります。

来年度も在学生、卒業生にとって実りある学会を開催していきたいと考えています。